

平成27年度 北海道大学2次試験前期日程(数学問題)90分  
文系(文, 教育, 法, 経済, 医(保健[看護・作業]))

1 2つの放物線

$$C_1: y = x^2, \quad C_2: y = -(x-1)^2$$

がある.  $a$  は0でない実数とし,  $C_1$  上の2点  $P(a, a^2)$ ,  $Q(-2a, 4a^2)$  を通る直線と平行な  $C_1$  の接線を  $l$  とする.

- (1)  $l$  の方程式を  $a$  で表せ.
- (2)  $C_2$  と  $l$  が異なる2つの共有点をもつような  $a$  の値の範囲を求めよ.
- (3)  $C_2$  と  $l$  が異なる2つの共有点  $R, S$  をもつとする. 線分  $PQ$  の長さと線分  $RS$  の長さが等しくなるとき,  $a$  の値を求めよ.

2  $p$  は0でない実数とし

$$a_1 = 1, \quad a_{n+1} = \frac{1}{p}a_n - (-1)^{n+1} \quad (n = 1, 2, 3, \dots)$$

によって定まる数列  $\{a_n\}$  がある.

- (1)  $b_n = p^n a_n$  とする.  $b_{n+1}$  を  $b_n, n, p$  で表せ.
- (2) 一般項  $a_n$  を求めよ.

3 平面において, 一直線上にない3点  $O, A, B$  がある.  $O$  を通り直線  $OA$  と垂直な直線上に  $O$  と異なる点  $P$  をとる.  $O$  を通り直線  $OB$  と垂直な直線上に  $O$  と異なる点  $Q$  をとる. ベクトル  $\overrightarrow{OP} + \overrightarrow{OQ}$  は  $\overrightarrow{AB}$  に垂直であるとする.

- (1)  $\overrightarrow{OP} \cdot \overrightarrow{OB} = \overrightarrow{OQ} \cdot \overrightarrow{OA}$  を示せ.
- (2) ベクトル  $\overrightarrow{OA}, \overrightarrow{OB}$  のなす角を  $\alpha$  とする. ただし,  $0 < \alpha < \frac{\pi}{2}$  とする. このときベクトル  $\overrightarrow{OP}, \overrightarrow{OQ}$  のなす角が  $\pi - \alpha$  であることを示せ.
- (3)  $\frac{|\overrightarrow{OP}|}{|\overrightarrow{OA}|} = \frac{|\overrightarrow{OQ}|}{|\overrightarrow{OB}|}$  を示せ.

4 ジョーカーを除く1組52枚のトランプのカードを1列に並べる試行を考える.

- (1) 番号7のカードが4枚連続して並ぶ確率を求めよ.
- (2) 番号7のカードが2枚ずつ隣り合い, 4枚連続しては並ばない確率を求めよ.

## 解答例

- 1 (1) 2点  $P(a, a^2)$ ,  $Q(-2a, 4a^2)$  を通る直線の傾きは

$$\frac{4a^2 - a^2}{-2a - a} = -a$$

$$C_1: y = x^2 \text{ より } y' = 2x$$

$C_1$  と接線  $\ell$  の接点を  $M$  とすると,  $M$  の  $x$  座標は (実は,  $P$  と  $Q$  の  $x$  座標の中央)

$$2x = -a \quad \text{ゆえに} \quad x = -\frac{a}{2}$$

$\ell$  は点  $M\left(-\frac{a}{2}, \frac{a^2}{4}\right)$  を通り, 傾き  $-a$  の直線であるから

$$y - \frac{a^2}{4} = -a\left(x + \frac{a}{2}\right) \quad \text{すなわち} \quad y = -ax - \frac{a^2}{4}$$

- (2)  $C_2: y = -(x-1)^2$  と  $\ell$  の方程式から  $y$  を消去すると

$$-(x-1)^2 = -ax - \frac{a^2}{4} \quad \text{ゆえに} \quad x^2 - (a+2)x + 1 - \frac{a^2}{4} = 0 \quad \cdots (*)$$

上の2次方程式(\*)の判別式  $D$  は

$$D = (a+2)^2 - 4\left(1 - \frac{a^2}{4}\right) = 2a(a+2)$$

$C_2$  と  $\ell$  は異なる2つの共有点をもつから,  $D > 0$  より

$$2a(a+2) > 0 \quad \text{これを解いて} \quad a < -2, \quad 0 < a$$

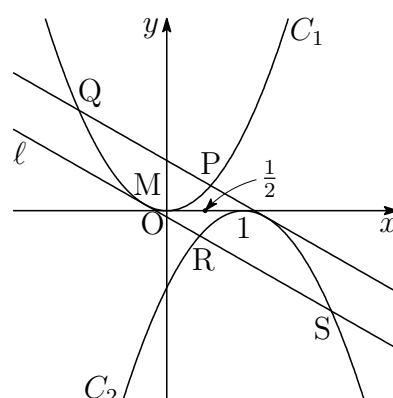
- (3)  $PQ = RS$  が成立するとき, 2点  $P, Q$  の  $x$  座標の差と2点  $R, S$  の  $x$  座標の差が等しいから

$$|-2a - a| = \frac{a+2+\sqrt{D}}{2} - \frac{a+2-\sqrt{D}}{2} \quad \text{ゆえに} \quad |3a| = \sqrt{D}$$

$$\text{両辺を平方すると} \quad 9a^2 = 2a(a+2) \quad a \neq 0 \text{ に注意して} \quad a = \frac{4}{7}$$

補足  $C_1$  と  $C_2$  は点  $\left(\frac{1}{2}, 0\right)$  に関して対称である.  $PQ = RS$  が成立するとき, 直線  $PQ: y = -ax + 2a^2$  と  $\ell$  は点  $\left(\frac{1}{2}, 0\right)$  に関して対称となる. 直線  $PQ$  および  $\ell$  の  $x$  切片は, それぞれ  $2a, -\frac{a}{4}$  で, その中央が  $\frac{1}{2}$  であるから

$$\frac{2a + \left(-\frac{a}{4}\right)}{2} = \frac{1}{2} \quad \text{これを解いて} \quad a = \frac{4}{7}$$



$$\boxed{2} \quad (1) \quad a_{n+1} = \frac{1}{p}a_n - (-1)^{n+1} \text{ より} \quad p^{n+1}a_n = p^n a_n - (-p)^{n+1}$$

$$b_n = p^n a_n \text{ より} \quad b_{n+1} = b_n - (-p)^{n+1}$$

$$(2) \quad b_1 = p a_1 = p \cdot 1 = p, \quad (1) \text{ の結果から} \quad b_{n+1} - b_n = -(-p)^{n+1}$$

(i)  $-p \neq 1$ , すなわち,  $p \neq -1$  のとき,  $n \geq 2$  に対して

$$\begin{aligned} \sum_{k=1}^{n-1} (b_{k+1} - b_k) &= - \sum_{k=1}^{n-1} (-p)^{k+1} \\ b_n - p &= - \frac{(-p)^2 \{1 - (-p)^{n-1}\}}{1 - (-p)} \\ b_n &= \frac{p + (-p)^{n+1}}{1 + p} \end{aligned}$$

上式は,  $n = 1$  のときも成立するから  $b_n = \frac{p + (-p)^{n+1}}{1 + p}$

(ii)  $-p = 1$ , すなわち,  $p = -1$  のとき,  $n \geq 2$  に対して

$$\begin{aligned} \sum_{k=1}^{n-1} (b_{k+1} - b_k) &= - \sum_{k=1}^{n-1} 1 \\ b_n - (-1) &= -(n-1) \\ b_n &= -n \end{aligned}$$

上式は,  $n = 1$  のときも成立するから  $b_n = -n$

(i),(ii) から, 一般項  $a_n$  は

$$a_n = \frac{b_n}{p^n} = \begin{cases} \frac{1 - (-p)^n}{(1+p)p^{n-1}} & (p \neq -1) \\ (-1)^{n-1} n & (p = -1) \end{cases}$$

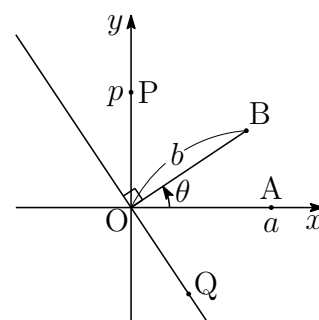
3 (1)  $\vec{OP} + \vec{OQ}$  は  $\vec{AB}$  と垂直で,  $\vec{OA} \perp \vec{OP}$ ,  $\vec{OB} \perp \vec{OQ}$  であるから

$$\begin{aligned} (\vec{OP} + \vec{OQ}) \cdot \vec{AB} &= (\vec{OP} + \vec{OQ}) \cdot (\vec{OB} - \vec{OA}) \\ &= \vec{OP} \cdot \vec{OB} - \vec{OP} \cdot \vec{OA} + \vec{OQ} \cdot \vec{OB} - \vec{OQ} \cdot \vec{OA} \\ &= \vec{OP} \cdot \vec{OB} - \vec{OQ} \cdot \vec{OA} = 0 \end{aligned}$$

よって  $\vec{OP} \cdot \vec{OB} = \vec{OQ} \cdot \vec{OA}$

(2)  $a, b, p > 0$ ,  $q \neq 0$  とし,  $\alpha = |\theta|$  を満たす  $\theta$  をとる. 条件から, 一般性を失うことなく

$$\begin{aligned} \vec{OA} &= (a, 0), \quad \vec{OP} = (0, p), \\ \vec{OB} &= (b \cos \theta, b \sin \theta) \\ \vec{OQ} &= (q \sin \theta, -q \cos \theta) \end{aligned}$$



とおくことができる. このとき

$$\vec{OP} \cdot \vec{OB} = bp \sin \theta, \quad \vec{OQ} \cdot \vec{OA} = aq \sin \theta$$

これを (1) の結果に代入すると  $bp \sin \theta = aq \sin \theta$

$0 < |\theta| < \frac{\pi}{2}$  であるから  $bp = aq \dots (*)$

$a, b, p > 0$  であるから, (\*) より  $q > 0$

$p = |\vec{OP}|$ ,  $q = |\vec{OQ}|$ ,  $0 < |\theta| < \frac{\pi}{2}$  であるから

$$\begin{aligned} \vec{OP} \cdot \vec{OQ} &= -pq \cos \theta = -|\vec{OP}| |\vec{OQ}| \cos |\theta| \\ &= -|\vec{OP}| |\vec{OQ}| \cos \alpha \\ &= |\vec{OP}| |\vec{OQ}| \cos(\pi - \alpha) \end{aligned}$$

上式より,  $\vec{OP}$  と  $\vec{OQ}$  のなす角は  $\pi - \alpha$

補足  $\vec{OQ} = (-q' \sin \theta, q' \cos \theta)$  とおいて (1) の結果に代入すると

$$bp \sin \theta = -aq' \sin \theta \quad \text{ゆえに} \quad bp = -aq' \quad \text{これより} \quad q' = -|\vec{OQ}|$$

このとき  $\vec{OP} \cdot \vec{OQ} = pq' \cos \theta = |\vec{OP}| (-|\vec{OQ}|) \cos |\theta| = -|\vec{OP}| |\vec{OQ}| \cos \alpha$

(3) (\*) より  $|\vec{OB}| |\vec{OP}| = |\vec{OA}| |\vec{OQ}|$  よって  $\frac{|\vec{OP}|}{|\vec{OA}|} = \frac{|\vec{OQ}|}{|\vec{OB}|}$

- 4 (1) 52枚のカードの並べ方は52!通り。番号7のカードをひとまとめにすると、番号7以外の48枚のカードとひとまとめにしたカードの並べ方は

$$(48 + 1)! = 49! \text{ (通り)}$$

ひとまとめにした番号7のカードの並べ方は 4! (通り)

よって、求める確率は  $\frac{49! \cdot 4!}{52!} = \frac{4 \cdot 3 \cdot 2 \cdot 1}{52 \cdot 51 \cdot 50} = \frac{1}{5525}$

- (2) 4枚の番号7のカードを2枚ずつ2組に分ける方法は  $\frac{{}^4C_2}{2!} = 3$  (通り)

番号7のカードを2枚ずつにした2組のカードの並べ方は

$$2! \cdot 2! = 4 \text{ (通り)}$$

番号7以外の48枚のカードと2組のカードの並べ方は

$$(48 + 2)! = 50! \text{ (通り)}$$

このとき、番号7の4枚が連続して並ばないので、(1)の結果を用いて

$$\frac{50! \cdot 3 \cdot 4 - 49! \cdot 4!}{52!} = \frac{50 \cdot 3 \cdot 4 - 4!}{52 \cdot 51 \cdot 50} = \frac{(25 - 1)4!}{52 \cdot 51 \cdot 50} = \frac{24}{5525}$$